



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

《東日》

國花萬葉記

堯 壹波	○ 二 鴻	堯 日向	堯 豐後	堯 筑前
斗 對馬		堯 大隅	堯 肥前	罌 筑後
		堯 薩摩	突 肥後	罌 豊前

全尾

○ 西海道
九箇國

卷第十四之下

ル 3
3671
23



門 3
 號 3671
 卷 23



本日 國苑萬葉記 卷之十四下

始 西海道 九箇國

筑前國 筑及 上後十段 南水田日余

粟炊宝岳捕備之中上國あり

怡土 志摩 早良 那珂

席田 糟谷 宗像 鞍手

喜森 糠波 夜須 上座

下座 洲笠 遠賀

田敷壹万九千七百六十八丁

知り言 又指計万二千八百十二石

福園御城主 以戸公二百九十八

松平備前守齊清 後四位下 十ノキヨ 黒田 揚十

氏内五二名 治意公御息女 八十二万石 林 氏友 氏 秋友 丹下





押 上さくく田霞がせき
 中ねは池 下まぶや
 下まぶや白うひぶら
 系安系小係上まぶやり上丁
 大板白まぶや・同ふくしま
 かりさね又まぶ丁

佐の

 押 石同

佐の


 駕 石同

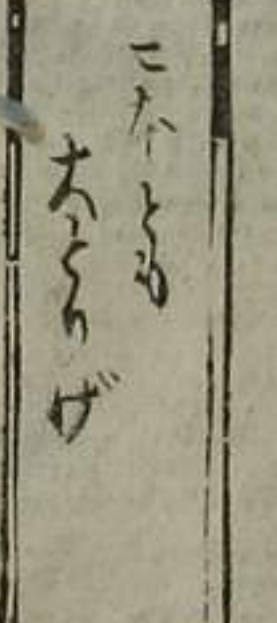
佐の

 押 石同

佐の

 押 石同

佐の

 押 石同

佐の

 押 石同

佐の

 押 石同



松平氏所家系

宇多源氏位く本源三秀後六代孫
 馬田左衛門尉大夫判左源宗隆
 位千は長伴香那末田臣末隆七代

齊清 儲あり
 齊溥 長隆也

女子 長子長隆也


長隆又ヨリ松平氏所也


秋月御城主 二百八十八リ

黒田甲斐守長元 長元
 長元 長元

佐内室長元甲斐守長元
 長元 長元



佐の

 押 石同

佐の

 押 石同

久保良院 禪

續至 建久三年 築西建

聖徳寺 禪

地多立 同六年 建立 國基堂

安樂寺

寧府立 延喜十九年 辰仲宗

最勝院 禪宗

建立 後冷泉院 承安五年 三月 岩上

禪法院 禪宗

名爲立 中納言 秀秋 建立

阿彌陀寺 淨土

福屋立 國基 上人 中号 修基

西光寺 淨土

町尾立

▲筑前國名所

加や乃山

善和 下郡の 麻柳 鹿野

かまき山

善和 ひさく 山

六所山

六所山より西にそよ風と山桐 終世 念も 寺

ひさく山

ひさく 山に生松 希と云 希 希 希

一戸山

一戸山 乃 植 希 希 希

希

希 希 希 希 希

希

希 希 希 希 希

希

希 希 希 希 希

希

希 希 希 希 希

希

希 希 希 希 希

希

希 希 希 希 希

希

希 希 希 希 希

希

希 希 希 希 希

希

希 希 希 希 希

希

希 希 希 希 希

希

希 希 希 希 希

希

希 希 希 希 希

希

希 希 希 希 希

希

希 希 希 希 希

希

希 希 希 希 希

希

希 希 希 希 希

希

希 希 希 希 希

ころくときり乃傳なり文殊堂ありあり

あつこく山

大和赤松山あり日守り

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

あ乃湊

あつこく山あり

備前川と注ぐんこのいそぎをたつてふまのりん葉

くぬ江 万十丸 備前川と注ぐんこのいそぎをたつてふまのりん葉

茶者江 備前川と注ぐんこのいそぎをたつてふまのりん葉

西乃三毛 備前川と注ぐんこのいそぎをたつてふまのりん葉

玉乃三毛 備前川と注ぐんこのいそぎをたつてふまのりん葉

備前國分名物出所

練酒 備前川と注ぐんこのいそぎをたつてふまのりん葉

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

大日本西海道 九ヶ國之内

備後國 備列 上管十郡而小六日 叙於新羅と勝て 大中國也

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

備前國分名物出所

柳河郷城主

有馬氏清家系

柳河郷城主

上三四町五石あり
中七石二斗板・下三石二斗
系西より人四系上り
大坂中村一重華安所・ふし丹後所

柳河郷城主

有馬氏清家系

柳河郷城主

上四石良
柳河郷城主

村上源氏

村上天皇三皇子具平親王之後胤
赤松以命入及則村十代之孫

源則頼

有る中勢大補
刑ア々信守

頼徳

玄菟子

其 仙々良又世

養女 有る去度改定

柳河郷城主

二百年九月十日

有る氏以之

養女 有る去度改定

五花万壽丸鑑廣

五花万壽丸鑑廣

括一万九百六十六

柳河郷城主

上ノ下若法徳所
中ノ下若法徳所
大坂華安所

柳河郷城主

上ノ下若法徳所
中ノ下若法徳所
大坂華安所

柳河郷城主

上ノ下若法徳所
中ノ下若法徳所
大坂華安所

源鑑連

鑑廣

万壽丸

柳河郷城主

源鑑連

鑑廣

万壽丸

元和七ヨリ立花氏所之

△西園神社之記

高良の社 高井殿之立 社於千石

別内 月光院

▲系社 武内宿禰

或いは玉皇社と号し

▲人皇四十四代 天武天皇 白鳳二年二月

八日 高良神社 遷座 天武天皇

遷座 天武天皇 武内宿禰

より末世のとき 祀り 新羅の御害

おろし人皇 新羅の御害

建 新羅の御害

又初め刻ら 自然降伏せんとす

件の新羅 延喜元年 新羅とりつて

遷座 延喜元年 新羅とりつて

▲即位 延喜十一年 三月廿

二日 延喜十一年 三月廿

平松神社 仁治二年 延喜元年 延喜元年

▲系社 日本武尊 延喜元年

明社 山下之立 社於五十石

△同佛閣之記

長寿寺 延喜元年 延喜元年

明德院の御宇 不建之次と云く

同奉 每阿聖光上人あり

▲中改光の寺と号し

兼天寺 延喜元年 延喜元年

東祥院 延喜元年 延喜元年

神良院 延喜元年 延喜元年

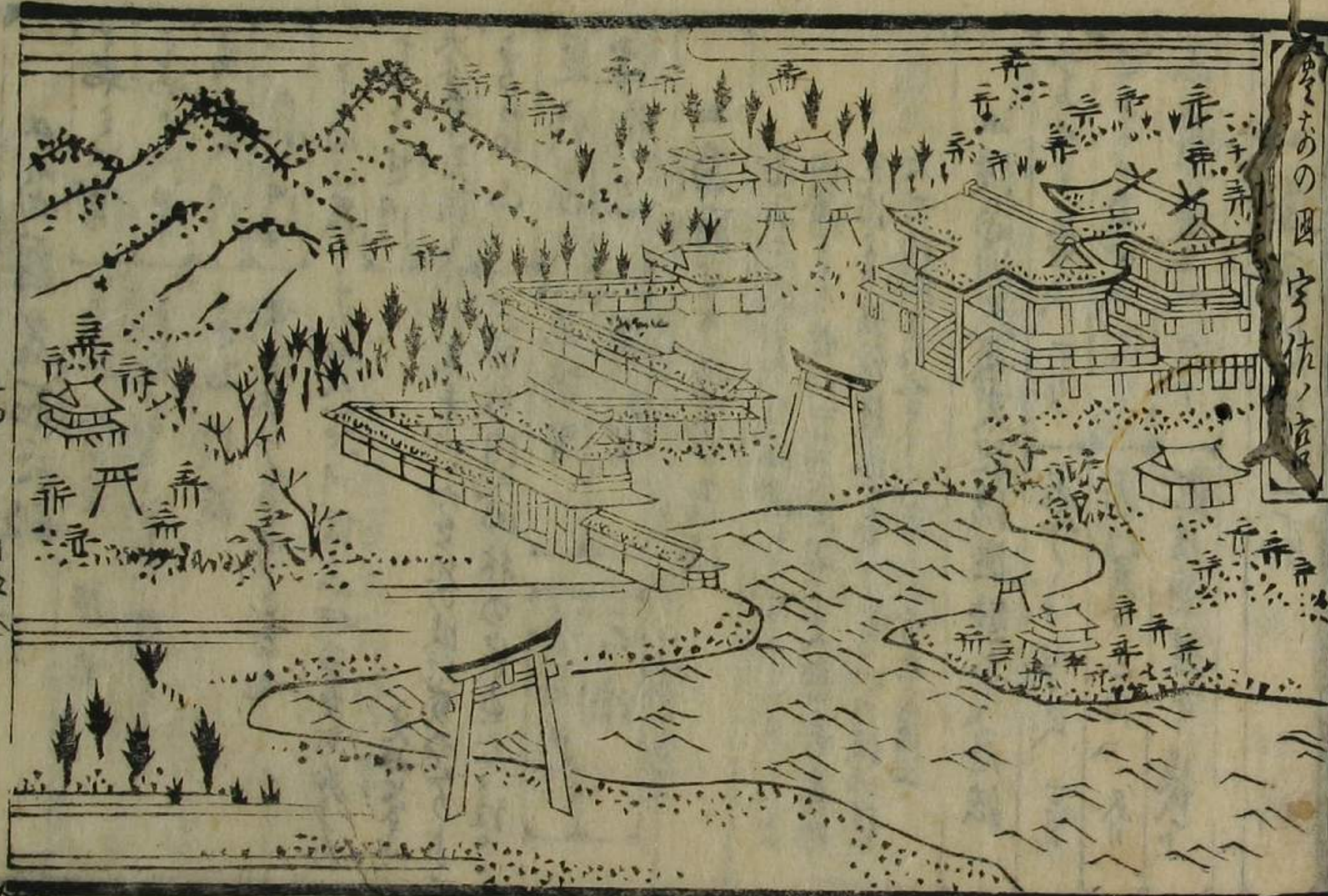
茶師寺 日 延喜元年

長源寺 一向 延喜元年

妙光院 日 延喜元年

西福寺 延喜元年

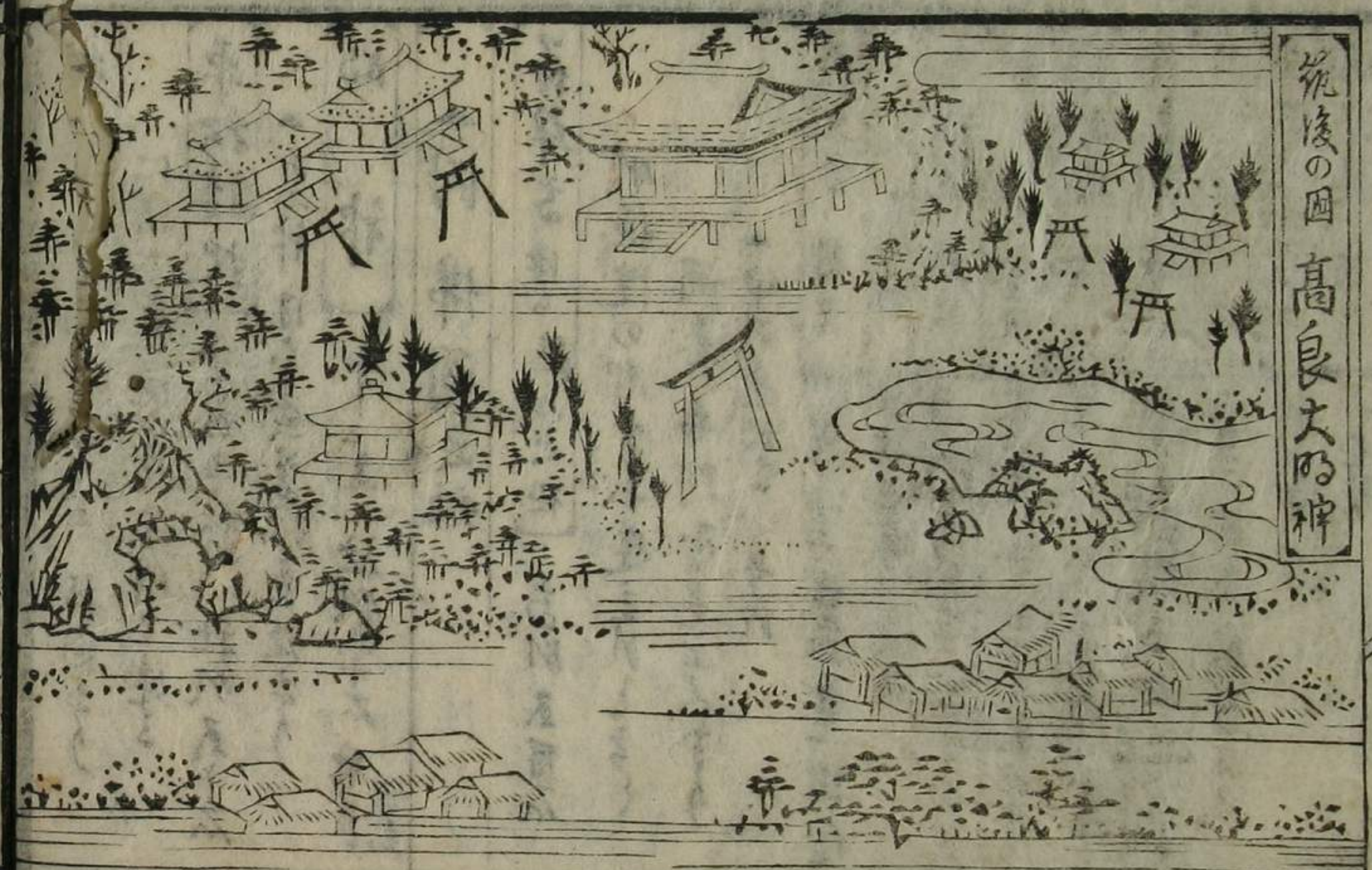
尾多名所 十四 日 四十八



尾多名の園字佐ノ宮

尾多名所 四十七

筑後の國 高良大の神



▲西國名所之記

上野之此浦

系物也此浦 漢里

右やまの里

系物 和名もみ 漢里

高久の川

系物川流

一歩門

世傳之ちくご川と云之

ちとせ川

子傳不復のちとせ川一歩川流と云之伊の長也かえん

三井の内

三井の内之竹林の史也云々注す

石垣山

石垣里

金目川

三津山

三津里

三津

▲西國より徳方及法

西國より内海横を之りて西國より一歩
内浦より西の末名実等々大坂より西海
三津より西海横を之りて西國より一歩
右三津川下之りて西國より一歩及再出

▲後西國久米肥後國熊本及法

西國より西へ二リ 志守くかせへ 三リ
せくろの東へ 三リ 南に雲か山へ 六リ
山崩か麓へ 六リ 肥後國熊本 出後下

山崩 山崩

▲海草 ▲塩 三條 紅花
▲武蔵 ▲松

右筑後國分上

大日本西海道 九ヶ國の内

豊前國 上後八郡 南加日

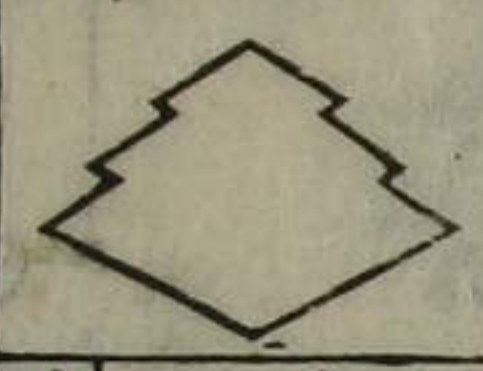
唐古のちりー 系物 系物 系物 系物

田河 金板 系物 仲津
筑城 上毛 下毛 宇佐

田後七か入百七十下 知り

二橋三万七百四十

小倉津城主 二百六十六リヨ



小倉大膳 大膳内番

徳内室右左衛門忠直苗末女 徳承子

けしふ物とて神史と造りたる名付て度懐
八歳と神史と云ふ 元正天皇書言世
年正徳定よりて放生と物と云ふ
社成千石

▲人皇四十八代孝徳天皇より前道徳と愛
一五位と儀とを仰る神皇と云ふ
あひく物使として和氣長十良と云は
也くあは長十良と云は伏見くありて
本紀と移りされば大神皇より五太と云は
法服と現すと云は五良神皇と云は吾國
の天日嗣の神代より侍りて神皇の
臣として何と云ふと云ふは伏見くを
此と云ふは神皇と云は神皇と云は
と思惟と云ふは神皇と云は神皇と云は
中と云ふは神皇と云は神皇と云は
て大隅國へ流せりは神皇と云は神皇と云は
あはらりしと云は神皇と云は神皇と云は
神皇と云は神皇と云は神皇と云は
そ外古今に神皇の具徳と云は神皇と云は
君よつと云は神皇と云は神皇と云は
▲新古今集 神皇天皇 孝徳天皇 社を新
社を神皇と云は神皇と云は神皇と云は

西乃海三島乃と云は何と云は神皇と云は

字依之

▲高津原命 素戔嗚尊乃神子

媛妻社

▲桑林 奉國皇長女 桑林皇女乃神皇

皇前乃見古記云四河原麻衣乃神皇

御一神皇乃神皇乃神皇乃神皇乃神皇

皇前乃見古記云四河原麻衣乃神皇

皇前乃見古記云四河原麻衣乃神皇

彦山三所大権現

三ヶ岡小幡振也 彦山三所大権現

正十九日 彦山三所大権現

彦山権現 彦山三所大権現

天皇乃此所八角乃 彦山三所大権現

乃より神皇乃神皇乃神皇乃神皇

神皇乃神皇乃神皇乃神皇乃神皇

彦山三所大権現乃と云は神皇と云は



稻葉佐中手カコシ幾通
又万六十六石ヨ

加納外記
星於隼人
稻葉乳母

御内室 奥平大膳大夫妹

御 上久保丁・下あさぎらりけけ丁
源 大坂巻トキヨ月
き ちんえとせ



御 御内室

佐の 白
くろさるち
くろさるち
くろさるち

附 宗 押地くろ
りん白
くろさるち
りん白

稻葉氏御家系

伊豫國佐人阿部四右衛門通佐十一世孫
慶六越知通成男始入讃州

越知通高

稲葉刑ア由補
号 壱塵

是より由由主と親代
之臣くろさるちとせ

幾通 依中書

慶長入ヨリ稲葉氏成之

梓筑所城主

二百六十三リヤ

松平河内守親良

田中勝人
加長長次良

御内室 松平友京亮始

御 上外さうら田・中あさお
や 中あさお 下あさ丁
一さ 大坂中の一さ

御 御内室

附 庫 押地くろ
りん白
くろさるち
りん白

松平氏御家系

和名永吉信光十男徳見治良右三の光親曾孫

源重勝

由世家号改
松平大隅守

是より由由主と親代
之臣くろさるちとせ

親良 河内守

一山保二ヨリ松平氏成之

日土所城主 二百六十二リ

本下大和守俊敦
 松平兼刀
 定吉重臣



御内室 沼井美枝お娘
 正也
 ・上あこころやぶこころじ
 ・中あさよ一本松
 ・下しげ二本松
 ・大坂中の傍西佐助



御内室
 御 天のせいの
 うい ききき
 うい
 うい
 うい
 押こい
 かん
 赤
 附
 かん
 かん
 めん
 き

本下氏家系

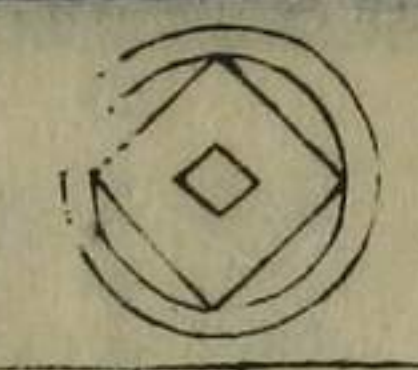
服部兼肥後守俊之位中納言家定三男
 トヨトミノブト
 豊臣延俊 本下
 なるる夫
 是より本下氏を以て代り
 大坂中

俊敦 大和守

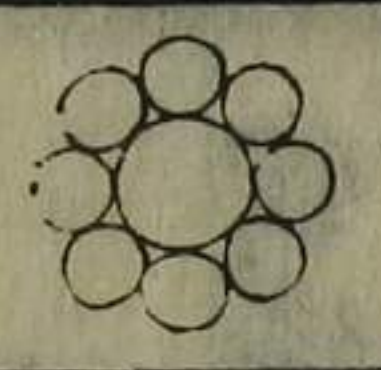
慶長より本下氏以之

府内所城主 二百六十二リ

松平信濃守信直
 今千代
 二万五千二百石
 松平信直の
 順着しる



御内室 貴父友妻の御娘
 御 上すくひを
 ・中なるる
 ・下窪井よ木
 ・大坂中の一史



御 二
 本
 とも
 らや
 御内室
 御 駕
 同
 かん
 かん
 附
 かん
 かん

松平氏家系

松平友進丞兼正二男
 左衛門尉親長長男
 大給度流

源近正

千九百五十五
依依足付死

是乃近正之叔也
今匡く其巻をみるべし

近信

依依也

万治元ヨリ松平氏依之

佐伯卿嫡子

二百六十六リヨ

毛利出雲守高翰

武万石

関若牛人
中村志保ナ



上りて下さくまこり
下りて下さくまこり
大坂天候十一丁同候が



毛利伊勢守高恭

中内室龜井大隅守娘



押うのめ
駕地之
附



押古日所
かど
くろ
らん白

毛利氏卿家系

原姓 後改表系姓 毛利氏

宇多天皇之皇子 敦實親王之曾孫

依々本左衛門尉高次郎十四代

餘江領中 高久八代

森九良友 森川高次郎男

藤原高政

初森勲良
是より高次郎
數代ありて
今もその系

高翰

出雲也

女子

妻之依依不長室
三人 流川經長室
細川中務少輔室

高泰

伊勢也

慶長六ヨリ毛利氏依之

森卿領主

二百七十三リ

久留米藩家系通表

久留米藩家系通表

千七百二十五年八月

神内安女長女のきり

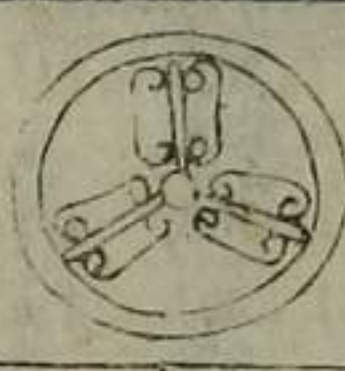
上志を元丸の辻

御座しと。下白りひさる

大坂中の一

押 こん 改二示 引

かこ ち 日引



御 婦 附

久留米氏御家系

越智康親 久留米

久留米氏御家系

通嘉 伊ちち

慶長十三年久留米氏

高田代官

今井九左衛門 龍後 並名

豊後國神社之御

振原天日神 武内宿禰也 高田一丈 志高同氣

八幡宮 有内三三 依宮内同神

五社神社 日田天日神 社於九三三

親善寺 真言 天野五郎基弘法

金剛院 真言 依相立 依相立

依相立 依相立 依相立

依相立 依相立 依相立

依相立 依相立 依相立

依相立 依相立 依相立

豊後國 佐原大明神

此山府中よりあり又此山温泉あり
故に湯の嶽ともなり

三保浦

佐原

小竹湾

三保浦

此山乃湯の嶽なり此山温泉あり
此山乃湯の嶽なり此山温泉あり
此山乃湯の嶽なり此山温泉あり
此山乃湯の嶽なり此山温泉あり

佐原

佐原

佐原

佐原

佐原

佐原

佐原

佐原

豊後國中名物所

其石

其石

其石

其石

其石

其石

其石

其石

其石

其石

其石

其石

其石

其石

其石

其石

其石

其石

其石

其石

其石

其石

其石

其石

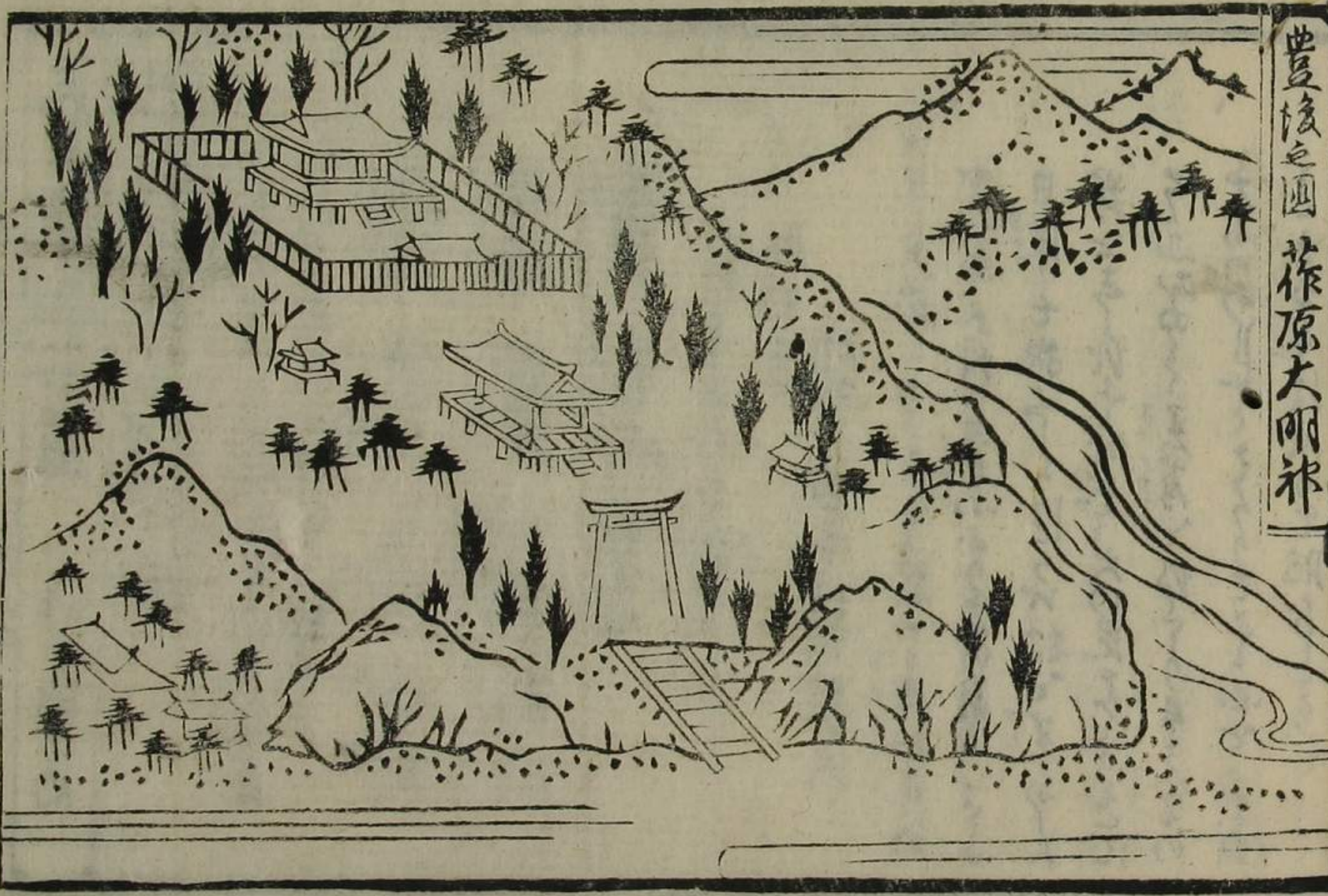
其石

其石

其石

其石

右は佐原大明神



豊後國 佐原大明神

大日本西海道 九十九國の内

肥前國 肥前 上後二郡 南の八日

古のりく種百倍を生産米極農
りく負多極谷中上國あり

基偉 養父 三根 小味

神勝 佐賀 松浦 杵橋

菟津 昔本 三本

田敷を万三ふ田百世七ふ

知りる

六拾七万千四百世七ふ

▲えい大花とありり子ふゆい系以事の
十八年八月、其平山より大の國といふ
日没して松くくりりうば松とつて
岸とまふ千府を大の芝んくもむ
そふおあくるる屋とつりりそ人宮の
大ふいあしとそりりそをふとふふ
と云ありは改めて肥あるとる

佐嘉郡城主 二百九十九

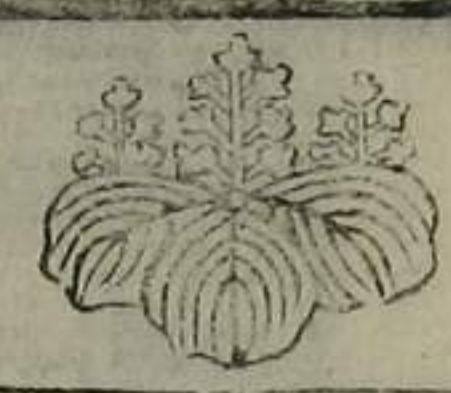
松平肥前守 正 徳傳執後 練早斐あ 多々久英作 徳傳安彦 同十友集り



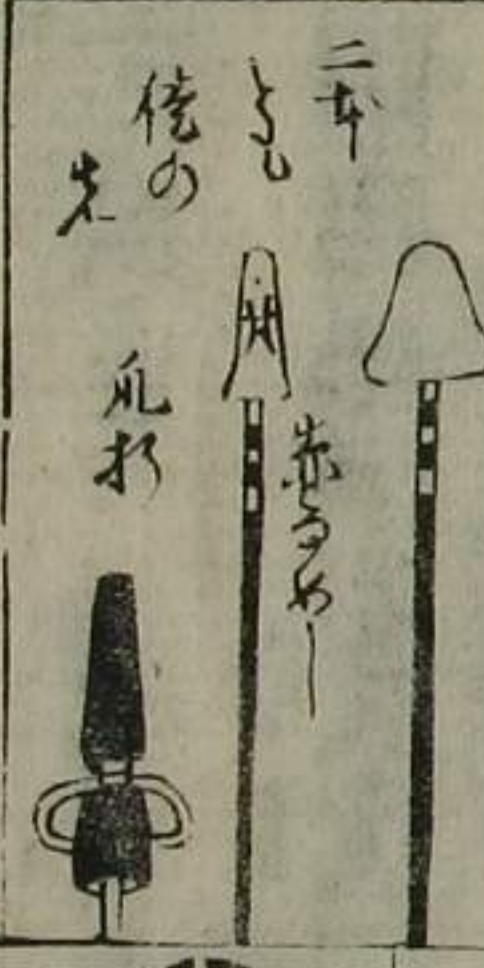
御内室 將軍家存る御姫

御 上山下門の内・中・海流の上
下あふ一本松・下せんうりや
系うく凡死に系下ル

まき 八坂天使十二丁目
長崎大こく下



御 二平 徳の先 凡打



附 白



御内室

松平氏附家系

太宰少貳後房 長男

藤原清久

徳傳 正倉

皇太子御成婚の御代に
清久は御成婚の御代に

齊正 昭あき

慶長より徳傳家伝之

小城御城主

御方 三百十三リ

徳傳 堀保直亮

御方 造河
お町敷る
園田長左衛門

御内室

御方 上幸迄の内・中虎伝門内
下南本不
大坂やうきせ下由

一本
あつらひ

押 地くろ
もん
白

二平
かしの
さね

附
くろ
右月
白

御内室

蓮池御領主

御方 三百十三リ

堀保 堀保直亮

石井中務
堀保直亮

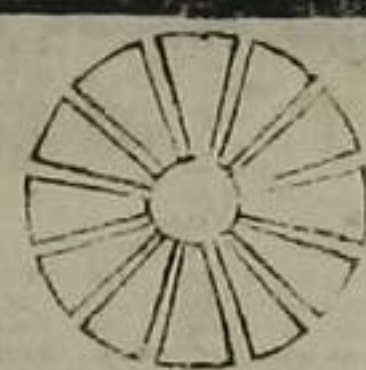
御内室

御方 上あきやうど・下二平板
やうき 大坂やうき白子丁

二平

押 こん
かん白

御方 駕
月形



御内室

所家系右月形

鹿嶋御領主

御方 三百七十七リ

堀保 丹波守重永

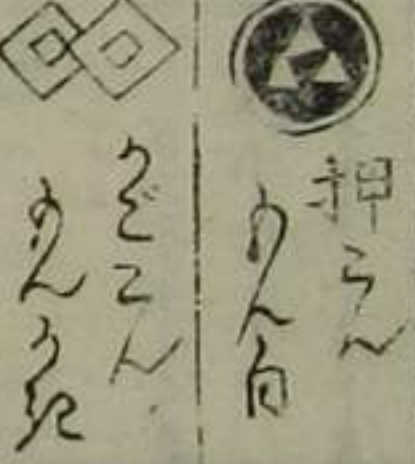
田中原孝
大塚守忠



御内室



上あき... 下白うの
大坂... 三丁め



御

御

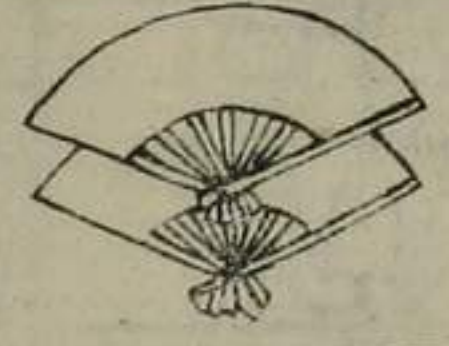
御家系 右日

鴻原御城主 三百一丁

松平主殿 忠候

七万石

御内室 井伊掃部頭 幸中娘



上... 中三四二丁目
下...
大坂... 中の一

御

御内室

源好景

松平大炊助
於善明... 代

忠候

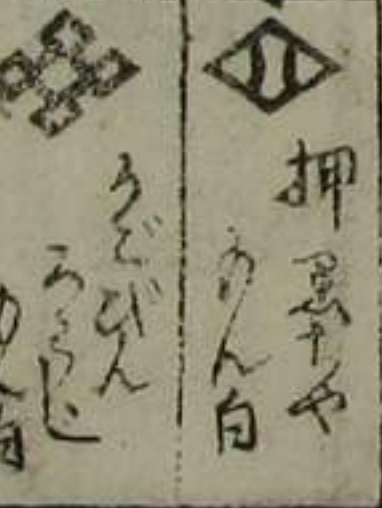
安永三ヨリ 松平氏

唐津御城主 二百十一丁

小笠原佐治 長

六万石

御内室



平戸 新田御願主 右日形



招浦大和守 皓

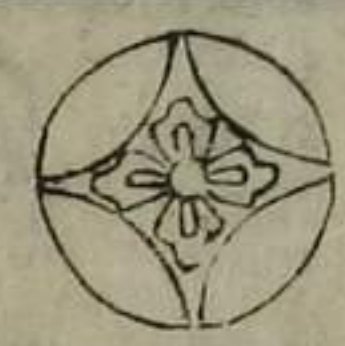
字取重三

周室 招平甲斐守 娘

御願主 押さへ

信由さね 駕 日形

御願主 上平水大川 下 毒戸



所 附

由家系ハ平戸御城主之日ト

大村御城主 三百八十一



大村丹後守 純昌

大村素直 日 辰

純昌 純昌 純昌



白わら 御願主 押さへ 小丸 辰

所 附

藤原純伊 大村 伊 純昌

純昌 丹後守 由平大村氏代々

五島御願主 三百九十八



五島大和守 盛成

佐藤 辰

源 上あふ 下白うら 大板 大板 大板

からの 御願主 押さへ

五島氏御家系

源純玄

五島

是の西成屋之と叔代五
くくくくくくくくくく

盛成 大智

尚平八代く又西成氏依之

長壽御番所

黒田鶴海 西家隔年交代

長壽御奉行

千石
俵料也千四百二俵



牧野長門守成文

千石
本所お生丁
馬



大草能老古高好

千石
馬

為國神社之記

後醍醐天皇

又号河上大明神 依表形

皇神

豊姫 神功皇后妹より 海軍一史

肥前風去祀之云人室三十代次次天皇廿二

年 甲申冬十一月朔日 甲子肥前守依表形

与止姫神依表形一名豊姫と号凡

乾元二年の祀之云之記大の神ハ八幡

系廟乃叔母神也皇孫乃妹也三韓

征伐乃首ハ千歳乃表類とて又織

乃由陸之海底小段一文字弘安の公

同乃乃神安と縁とく幾段の縁故

と波濤小々記多々々々 神依表形

山位 貞観十六年九月十六日云云後下 豊

松浦神社

松浦社 三座

田浦社 一座 仲表形 神武王上松浦御

志々伎社 一座 神武王弟十城別王下松浦御

鏡宮 一座 右社名依表形

是の西成屋之と叔代五

くくくくくくくくくく

意りて天神比祇我より助福也又

清鏡と名づくは所安也又くくく

作之石と名づくは山あり故に名付也

鏡宮の社

松浦社 社依六十石 若海日新

依用所文

松浦社 社依百石 社在末三

世の松浦御用所ハ秋の常乃由

遠慮使大伴依表形ハ表乃依

手長乃くくくくハ後乃由

松

浦川山

是といれ方山と云くとあり

山あり大里にあり坤乃方に呼名とあり

本中り浦里乃向い小嶋社を巳故石

とて移りて小嶋の後産乃社と云ふは死

とて移りてありて小嶋の味産と

美十寸 あり 町名 麻海 隅川 忠房 五

松浦乃海 あり 町名 麻海 隅川 忠房 五

乙女 あり 山系如太ふあり 川 松浦のうら

松浦川 あり 町名 松浦のうら

浦川 あり 町名 松浦のうら

ふ乃実 あり 町名 松浦のうら

ちんれ海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

七瀬乃海 あり 町名 松浦のうら

川上

依実乃内い神まし守す

依実乃内い神まし守す

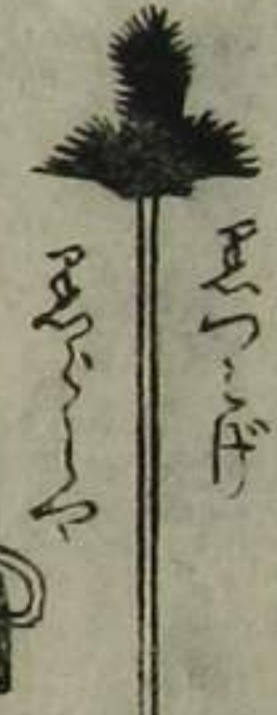
依実乃内い神まし守す

依実乃内い神まし守す



御座しき
上り内子川・中日船場丁
下本中の子・大坂中子・中子人子

佐のさね



押茶之小紋
丸白

かき塔くら
丸白

御座しき
細川邦衛利用

御内室 方田兼女正姫

佐のさね



押地子さき
細小丸
紋白

右近家系ハ熊本御城主ノ御

宇土御願主

二百九十二リ

細川中務少輔之壽

御内室 毛利出雲守姫

佐のさね



押茶之小紋
丸白



御家系ハ右日形

御座しき

御内室
上永田所・中子所の下林保子
下白子所丁・大坂中子所常安下

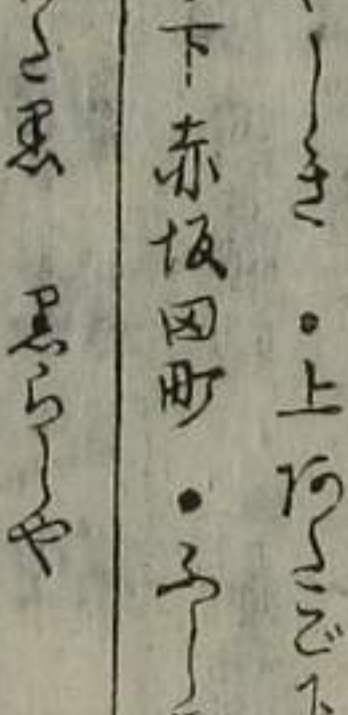
人吉御城主

二百八十一リ

相良吉波之頼之

御内室 井原氏姫

佐のさね



井原氏系
丸白

御座しき

御内室
下赤坂田所・下赤坂田所

相良氏御家系

肥後名所 十四

肥後國

相良四郎太師忠房長子

藤原長母 大かの子 相良友春素佐

長母の西内侍とて相良の
長子とて武家とて

頼之 を依ち

慶長十ヨリ相良氏以之

▲尚國神社之記

河種定

河種郡

▲系神

三座

本文 武藝總命 二座 河種始

三座 國造速流亮玉命

右本傳神家口史相兼也 尚國一宮

▲系神 天皇御宇十八年六月十六日河種

國小御りまはしその國乃 郊系曠を

て人居る人す天皇れ云け國小人ありや

時二神五いつ河種始 貴河種始始

ち事あらふ化して云く世傳云吾二人

あり何人なるやと故小そ此國と名付

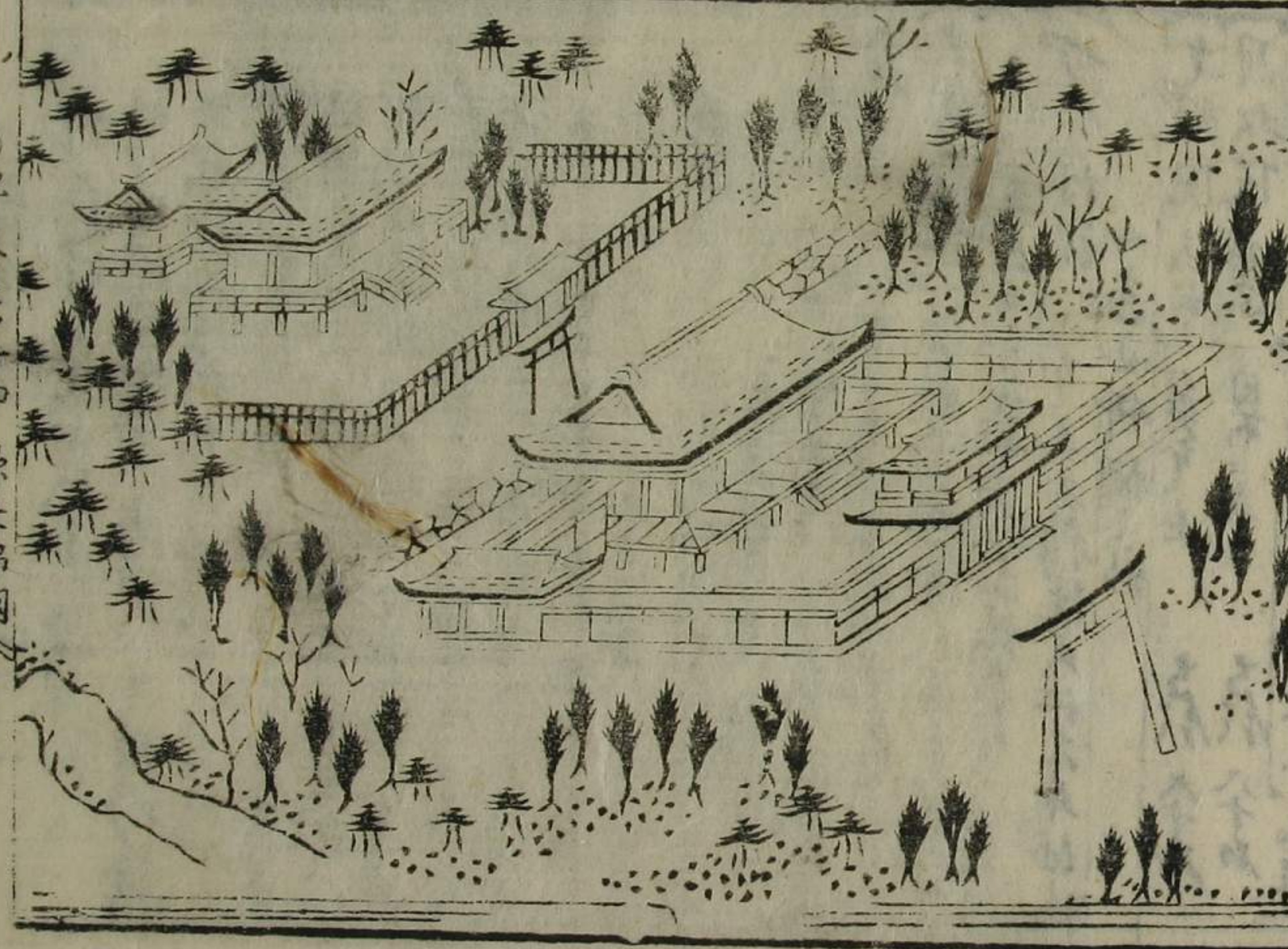
て河種と云日本紀和辭以 一神位

仁壽元年冬十月丙午 建崇 龍命加

階後三位 文德實錄 貞觀十七年十二

肥後之國

阿蘇山



肥後國 阿蘇山

何種神加返四位下 実保

此種神の由縁詠たりとくも國乃之指
其傳りては或は前もやまゝしるべき

法乃龜小むりて是より燦そまらふ事あり
此國の由縁神傳るは此池より日毎乃

わく交極極しらのがら多むおびしし其
迄のがら町山あり若くはささくもく

常乃のくありてはささくもくもく
是り此種神の由縁を記してありては

少すはささくもく 後指して國中 大氣成事
肥後守はくはくはくはくはくはくはく

志すもなりしはくはくはくはくはくはく
天下より心計の由縁記しはくはくはくはく

八幡宮 八代郡大宮村 傳りてはくはくはくはくはく
大宮村 八代郡大宮村 傳りてはくはくはくはくはく

文鏡院 傳りてはくはくはくはくはくはく
月松院 傳りてはくはくはくはくはくはく

三光寺 傳りてはくはくはくはくはくはく
神林院 傳りてはくはくはくはくはくはく

会公院 傳りてはくはくはくはくはくはく
大空院 傳りてはくはくはくはくはくはく

聖坂乃浦 傳りてはくはくはくはくはくはく
村あり 傳りてはくはくはくはくはくはく

たつね池 傳りてはくはくはくはくはくはく
今古の小池 傳りてはくはくはくはくはくはく

入事り 傳りてはくはくはくはくはくはく
とり 傳りてはくはくはくはくはくはく

ゆふい川 傳りてはくはくはくはくはくはく
八代乃池 傳りてはくはくはくはくはくはく

何ぞの池 傳りてはくはくはくはくはくはく
赤後山 傳りてはくはくはくはくはくはく

万里の柱 傳りてはくはくはくはくはくはく
墨摺川 傳りてはくはくはくはくはくはく

河内池 傳りてはくはくはくはくはくはく
此外四代小所載乃名地取

▲國名出所 傳りてはくはくはくはくはくはく
▲熊手をる 傳りてはくはくはくはくはくはく

▲熊手をる 傳りてはくはくはくはくはくはく
▲熊手をる 傳りてはくはくはくはくはくはく

▲熊手をる 傳りてはくはくはくはくはくはく
▲熊手をる 傳りてはくはくはくはくはくはく

▲熊手をる 傳りてはくはくはくはくはくはく
▲熊手をる 傳りてはくはくはくはくはくはく

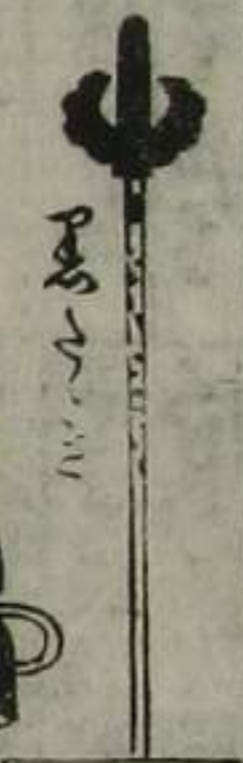


内友備後守政順

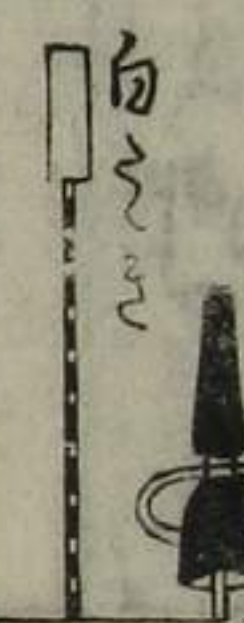
七万石

内内室井伊掃部頭妹

由也
・上房
・下房
・大坂中の一室



信の



押くろ
ゆん白
ゆん黒
ゆん白
ゆん黒

御 婦 内内室

内友氏家系

藤原義清

右系道
ゆん白
ゆん黒

政順 後法寺

延喜四ヨリ内友氏歟之

高綱御城主 三百八十二石



秋月筑前守種任

二万七千石

内内室脇坂中務大輔娘

御や
・上房
・下長者丸
・大坂に戸あり也丁目



御 婦 秋月栄之助

内内室上杉彈正大弼娘

秋月氏家系

大藏谷種實

秋 月
ゆん白
ゆん黒

種任 後法寺

女子 大夏侍従室

慶長四ヨリ秋月氏歟之

佐古原御城主 二百九十三石

嶋津筑後守忠徹

二万七千七百七十余

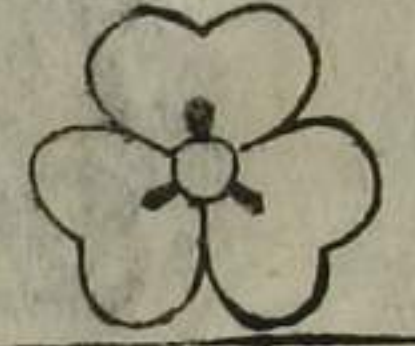
御内室松平薩守忠姫

御

上芝三四小山・中芝新野
下芝白子・大坂
三丁目



嶋山舎人
仔集院彰太郎
濱台守ちり



御嶋 島津萬進

御内室



押地 こん
りへ百
附 こん
及ふ
白

島津氏御家系

薩守忠久舎并
源以久 高橋右馬助
実徳丸

此島津氏之主と叔代と
之にくり武笠と云ふ

忠徹 薩後吉

女子 島津徳吉室

萬進

日向神社

弘法大明神

安住大明神

大光寺

壽福院

法林庵

如來寺

一月

名所

けい

西の社

梯

すう

児湯郡安村 日向一宮

大己貴命也 社号又宮傍社

豊後藩立社於八十

児湯郡本宮弘法大明神

開山妙光禪師 本侍御藍記

開山長南禪師 本侍

中侍村立 古殿六十三

実徳三

田中村之本寺 薩後初基也

名所

日本紀小天孫降臨の所と云

日向神社 大福の日向

山崎の日向

梯強沖

すう

御

此島津氏は日向といふ日向の事あり
といふけり外日向はあつた所多し
此在る所を日向といふことを除く

▲内國名物出下

菰蓐 粟花 若竹 黄梨 又倍子
右日向國分以上

大日本西海道 九ヶ國の内

大隅國 隅見 中後八郡 东后二日

小國より以下も食料あり 魚鱈
紙帛より焼たり 中上國
大隅 菱刈 粟系 燭燗
始羅 肝属 馭漢 惣毛

田敷田あ七百七丁

知りる 十を万八百廿八石

和州元年 日向國の内田敷を日付て
是と重り元來郡の名ありと云々

▲高國ハ薩州老由津家神領分

▲高國神社

麻見高大の神 素原郡三ヶ 祭神三流

正八幡と号ス 一統云素原と出見号也
解二日大隅國正八幡の史と出見号也
今依八幡と号し 神事按流

又流云 大隅宮の神 切白屋の 大流
前ハ菅原公 南西ハ蘇我帝
若美ハ仁徳帝 西向ハ武内宿也 若美流

▲秋明天白三年甲子 郡府一ヶ所 社地
右妻流と号し 神事按流

▲終元大権現 終元大権現 祭神

素原と出見号也 正親町院 天正年中
由社建 是流也 是小川にてこれと

一は麻見高大の神ハ神功皇后乃
依神云 依て今依と日向神なる也

▲高千穂社 此社縁起 并 延暦末
将上 年家持 終元 終元 終元
流る 高千穂國 終元 乃 是神の 終元
武太 終元 二部と云ふ 終元 終元

今ハ高千穂社 乃 中々 終元 終元

大隅名所 七十六

小笠原は是地君とあり日向島に
越の林ありと云

▲日向国仲桐の地

親善堂 鎌倉 三本寺 十二西観音
海岸院 鎌倉 大隅松林寺 符宗 日向松林村
法皇院 法皇 漆村光茂院 西之園 祖目秀文

▲日向名所

風乃森 高國の寺と云ふ所なり日向小
山にありて森大隅松乃と云ふ又日向
乃國の日向松と云ふ

松林山 日向松林寺 乃毛本社 乃毛
松林寺 乃毛松林寺 乃毛松林寺

松林山 日向松林寺 乃毛本社 乃毛
松林寺 乃毛松林寺 乃毛松林寺

夕ぐれのみ 日向松林寺 乃毛本社 乃毛
松林寺 乃毛松林寺 乃毛松林寺

▲富國名物出所 檜板 日向松林寺

▲石大隅国分

大日本西海道 九ヶ國之内

薩摩國 薩摩 中後十四郡 四方二日

高城 薩摩 龍島 日置
伊佐 阿多 河邊 穎娃
揖宿 佐梨 谿山 智覧

出水 麻児島
田敷 三指 七万 八千 百廿一丁
知り

麻児島 御城主 正百十一リ



松平豊後守 齊貞 七指 七万 八千 百廿一

所内室 川上 久 島津 忠 日丹 岐 川西 信 松 島津 忠 島津 忠



御座し
 ・上芝新巻り
 ・中三糸ひの内の内
 ・中芝新巻り
 ・下三糸ひ
 ・下赤川
 ・系孫小浜東
 ・さういん系入丁

・大板 上どさわり二丁目
 ・下いさわり
 ・ふりえ板むし

二本とも
 庄信の
 先
 ちくまつも

金紋
 御後範

二本とも
 ちくまつ

押不問

二本とも
 ちくまつ
 ぶら
 びらうど

附
 かし
 こん
 わ引

後四位侍長

附

御
 松平兵庫助齊彬
 十一年

御内室徳川氏部々姫
 ちくまつ

金紋
 御後範

二本
 ちくまつ
 ろら

押かこ
 右



の
 白

白

松平氏御家系

右大將源頼朝公長男 島津忠良後守忠久
 十八代孫侍理大夫貴久男

源義久
 侍理大夫
 三位法中純伯

是の御通殿色と教代と
 くらしくん去登せり

齊興
 ちきよ

齊彬
 兵庫頭

女子
 松平對馬守室

女子
 本多平人正室

齊敏
 ちきよ
 松平上総守室

養女
 近衛忠熙公正室
 養女

島城の島津家代々之

島國神社之記

後園神社 又号和名松島神社 頼姓
 系孫

貞觀十六年七月二日
 系孫府中

薩州國後園位上岡國神社の山頂
 火あり自ら燃き天を燒て灰沙

壹波國 下後二郡 正方一日

け國と對馬と二條と云西戎統帥以來て
傳は故又字代と勃傳は貞と傳るる
書くこと多かり

壹波 石田

田敷六百廿丁

知り多き方又あ九百廿二云

當國勝本城 江戸の二百廿三リヨ

尚餘の高麗陣の時迄あるより造る
阿久根包城も武末の城も
尚國の松浦肥前守所分

▲尚國神社并佛閣

石田神社 石田郡一宮村 ▲あふ神

天の長男命 天恩命命一宮一宮記

磯山神社 磯山 ▲神社之屋敷天皇
元龜年中に現

天満宮 勝本 ▲宰府天神勅傳系二郡
不勅去ま云 勝本 本宮不勅の王

▲月 名所と記

引登 系也 去弓 係

月引の浦 月引の浦 系也 意より月引の浦

月乃島 戦中より名を 系也 戦中より

凡 系也 意より 系也 意より

凡 系也 意より 系也 意より

凡 系也 意より 系也 意より

凡 系也 意より 系也 意より

凡 系也 意より 系也 意より

凡 系也 意より 系也 意より

凡 系也 意より 系也 意より

凡 系也 意より 系也 意より

凡 系也 意より 系也 意より

凡 系也 意より 系也 意より

凡 系也 意より 系也 意より

凡 系也 意より 系也 意より

凡 系也 意より 系也 意より

凡 系也 意より 系也 意より

日本の地をさるるより改めると号り
 勅すれり度よりけり及し標狀職と
 小下園あり
 上縣 下縣

田穀六百丁 貳万五千石
 異國にお送くして主殿さま
 及し其料不可計と云々

府中御城主 二百七十一半ヨ



宗對馬守義質
 拾万石以上之格
 御内室松平侯御弟様妹

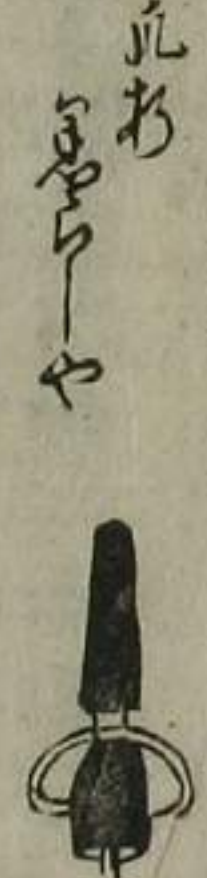

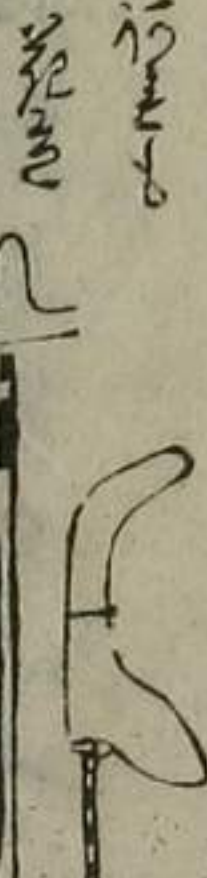
御中

 從四位伯長 ヨシカタ 杉村竹藏 日 太馬廻 村家通和 古川之典	上向初系・中先夫の命・下みの日 ・系より丁三系・天保天祐十二丁月 ・在崎とんや所・ひせん基傳殿四代	全段御被製 押花色 きの白 智 こん 十白
---	---	-----------------------------------



御 宗 彦備義章

附 多田徳三

此物  智 日乃 さしきこ	 押 日乃	 金段御被製
--	--	---

宗氏御家系

平義智
 宗對馬守
 從四位伯長
 皇女高直院之上と教代五
 今一々御送と云々

義質 對馬守 義章 彦備

為國ハ宗氏代々之

▲尚國神社之記

根多社 皇社 上祿社 ▲系三社 八幡宮
 正位 貞親十二年三月又日可山又位下目

所寄神社 正位五 ▲系三社 佛閣之記

▲佛閣之記

如來堂 屋中 長福寺 安楽院 標下

乃其いと... 好く乃...
君と目... 漸と...
下... の...
...
又二三... 乃...
... 惟時惟日...
賀保後輝

元祿十丁丑 歲仲夏上梓

天保六乙未 歲仲秋改正補刻

心齋橋通 唐物町南入

浪華書林 河内屋太助

47931

